



NEWS RELEASE

2018年8月30日

入善町で「車座ふるさとトーク」開催 テーマはコメの輸出拡大

各府省庁の大臣などが地方に赴き、現場の方々と車座になって対話を行い、生の声を聞くとともに、政府が取り組んでいる重要政策を説明する「車座ふるさとトーク」が、8月28日(火)に「うるおい館」で開催されました。



△90分間の意見交換が続きました。

今回開催された「車座ふるさとトーク」のテーマは「コメの輸出拡大」でした。農林水産省からは野中農林水産大臣政務官が参加。船木ウーケ社長や細田JAみな穂組合長、入善町内の農業生産者6名、入善高校農業科2名が車座になり、意見交換を行いました。

船木社長は「現在、日本と物価水準が近くコメが主食の中国、香港、シンガポールを重点として延べ31ヶ国に輸出している。増築している第三工場の完成後は、年間100万食のパックご飯を輸出していきたい」と話しました。

細田組合長からは「国内の米の需要が減少しているため、富山県産米を輸出することは重要。去年は570トン輸出しており、本年は850トンを見込んでいる。また、政府には民間では対応できない検疫等非関税障壁の撤廃に努めて

いただきたい」などの発言もありました。

生産者からは「輸出用米は低コストで生産する必要がある」「国内の需要が減少する中、海外市場へ打って出る必要性は実感している」「今後とも輸出用米の生産を安定的に支援してほしい」「将来は自分の名前を使った米を輸出するのが目標」といった発言や、入善高校農業科の生徒からは「海外にはお寿司を食べる人がたくさんおり、お寿司といえば日本なので、日本の米を輸出して海外の人にも是非日本の米でお寿司を食べてほしい」「米の国内需要が減少している中、コメ輸出は推進していくべき」などの提言がありました。

野中政務官は「非関税障壁の問題は、我々の役目。できるだけ、障壁を低くするようがんばりたい」「コメ生産の低コスト化への支援もしっかりやっていきたい」「これからも女性が活躍できるような環境を引き続き整備していきたい」と話されました。



△車座ふるさとトークに参加されたみなさん

午後2時から開催された「車座ふるさとトーク」に併せて、午前中は(株)アグリたきもと（入善町蛇澤）の農業用施設や圃場見学、(株)ウーケの工場見学なども行なわれました。

今回の「車座ふるさとトーク」での出席者からの発言も踏まえ、農林水産省においては、更なるコメの輸出拡大に向け、各種施策を実施していくこととなります。

以上